

民間企業で日本初の成功を目指す 月着陸船の製造拠点が門司区に誕生！

8/11 初公開見学会を実施

ものづくり技術と物流基盤をもつ北九州市がいま、そのポテンシャルを活かして「宇宙産業」のグローバルハブへと大きな一歩を踏み出します。

北九州市では、九州工業大学をはじめとする宇宙研究機関、高度な技術を誇る製造業、陸海空の充実した物流基盤、そして豊富な理工系人材というポテンシャルを結集し、宇宙産業という新たな未来産業のサプライチェーンの構築を進めてまいりました。

その結実として、北九州市の物流網、キャリムエンジニアリングの高性能クリーンルームを活かして、日本の月面開発を牽引する株式会社 ispace（アイスペース）が、月着陸船（ランダー）※1「ULTRA※2」の開発・製造拠点を、令和6年3月に北九州市門司区に開設いたしました。

今回の拠点開設は、本市の企業や人材の可能性を広げ、宇宙産業の集積を加速させる大きな契機となります。

つきましては、拠点の初公開にあたり、下記のとおり見学会を開催いたします。ぜひ、取材方よろしくお願いいたします。

記

月着陸船（ランダー）「ULTRA」 開発・製造拠点 初公開見学会

- 1 日時 令和8年8月11日（火・祝）16：30～18：00
- 2 場所 キャリムエンジニアリング門司事業所
（北九州市門司区大久保二丁目10番1号）
- 3 参加者 株式会社 ispace 取締役 CFO 兼 事業統括エグゼクティブ 野崎順平
北九州市副市長 片山憲一 ほか
- 4 主催者 株式会社 ispace

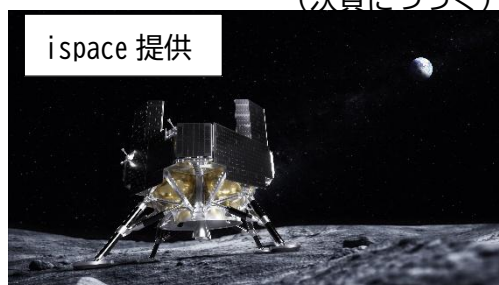
（次頁につづく）

※1 月着陸船（ランダー）

月へ荷物を輸送することを目的とした宇宙機のこと。ロケットで打上げられた後、月面まで航行し着陸する。

※2 ULTRA（ウルトラ）

同社が開発する新型モデルのランダー名称。積載可能なペイロード（荷物）は最大200kgを予定している。2028年に、種子島宇宙センターから日本の基幹ロケットであるH3ロケットに搭載しミッション3として打ち上げ予定。月面着陸が成功すれば、民間企業による日本初の事例となる。



【企業概要】

会社名	株式会社 ispace
設立	2010年9月
代表取締役	袴田 武史
本社所在地	(本社) 東京都中央区日本橋本町1-9-3 M-SQUARE6F
資本金	115億円
事業内容	月面または月周回軌道への輸送サービス、月ミッションに係るデータサービスほか 同社は、顧客の荷物を預かり、月周回軌道/月面まで輸送する「ペイロードサービス」をビジネスの中核としています。

<問合せ先>

産業経済局 宇宙産業推進室

担当:岩本(室長)、高原(係長)

TEL:093-582-2716

san-uchuu@city.kitakyushu.lg.jp